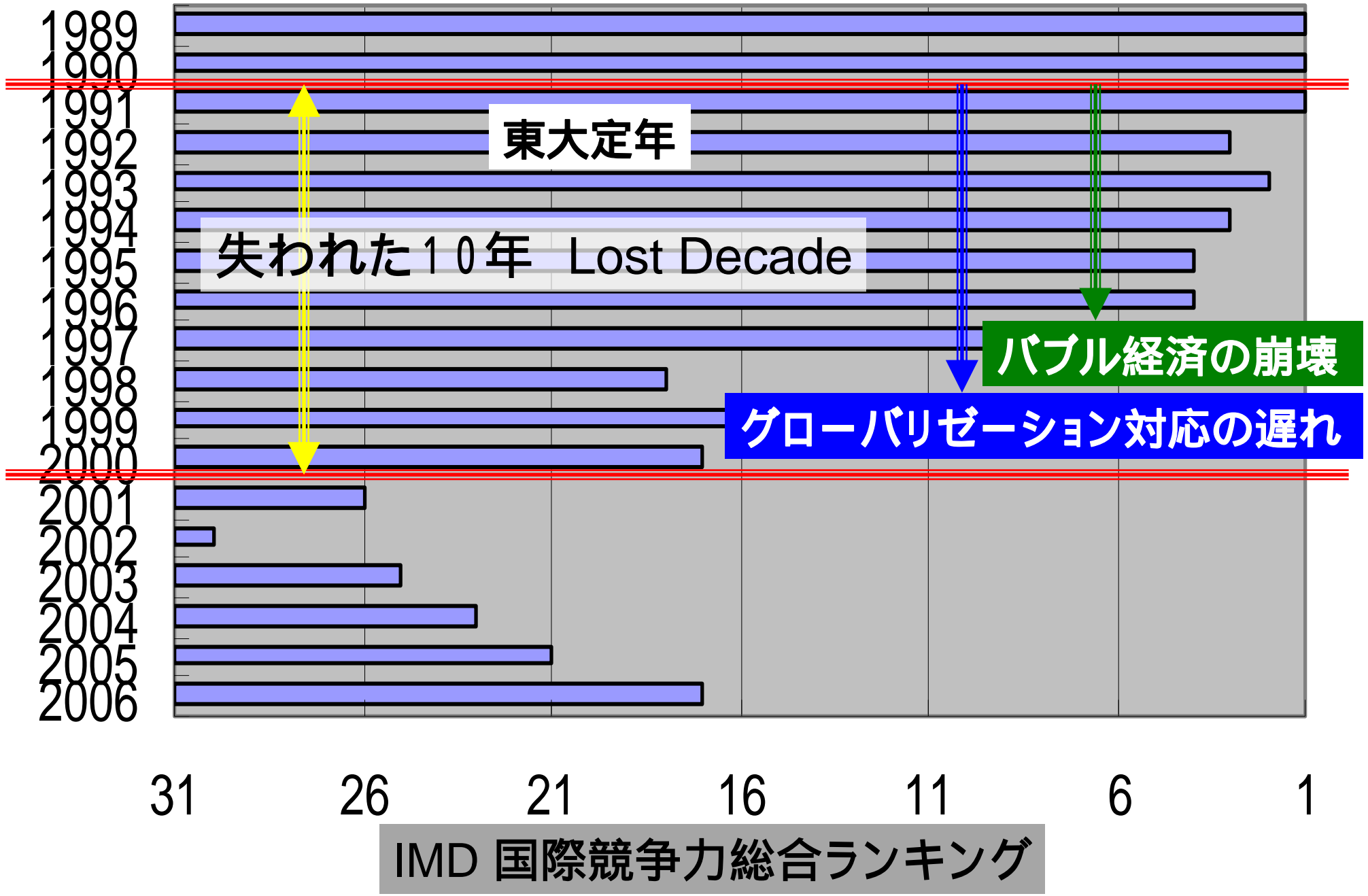


建設系CPD協議会シンポジウム
- 建設技術者はCPDをどう活用すべきか -
2007年9月21日

技術者の地位の向上とCPD

大橋秀雄
工学院大学理事長、JABEE会長



失われた10年

苦渋の時代からのレッスン

有能な組織人であるだけでなく

個人としても強くする

日本

日本自動車株式会社
乗用車設計部車体設計課

課長 佐藤 一郎

名刺は社会の鏡

イギリス

個人としての
Credentials 信用証明



Alex McDonald
Bsc, CEng, FIMechE, MSAE

Manager, Body Design Division
British Motor Company

強い個人をどうアピールするか

Career

仕事歴

Credentials 信用証明

- 学位
学士、修士、博士
- 職位の証明
専門職学位
技術士、一級建築士など
- 学会など団体会員
フェロー、会員など
- 継続能力開発CPD / 記録

全体で強い個人を証明する

近代科学誕生後300年

文明誕生とともに5000年

Science
科学

Technology
技術



Scientist
科学者

Engineering Practitioner

知識、構想力



熟練技能

Category:

Engineer

Technologist

Technician

Licensee:

Prof. Engineer

Eng. Technologist

Eng. Technician

in UK:

Chartered Eng.

Incorporated Eng.

ditto

Education:

4年、大学

3年、高専

2年、訓練学校

日本語でどう対応させるか

職務:

技術者

?

技能者?

資格:

技術士

-

-

Profession (専門職業) とは何か

社会が必要とする特定の業務に関して、
高度な知的訓練と技能に基づいて独占的
なサービスを提供するとともに、**独自の倫**
理規定に基づいた自律機能を備えている
職業

いつまでも高度な 継続能力開発

有資格技術者とCPD

技術士：（技術士の資質向上の責務）

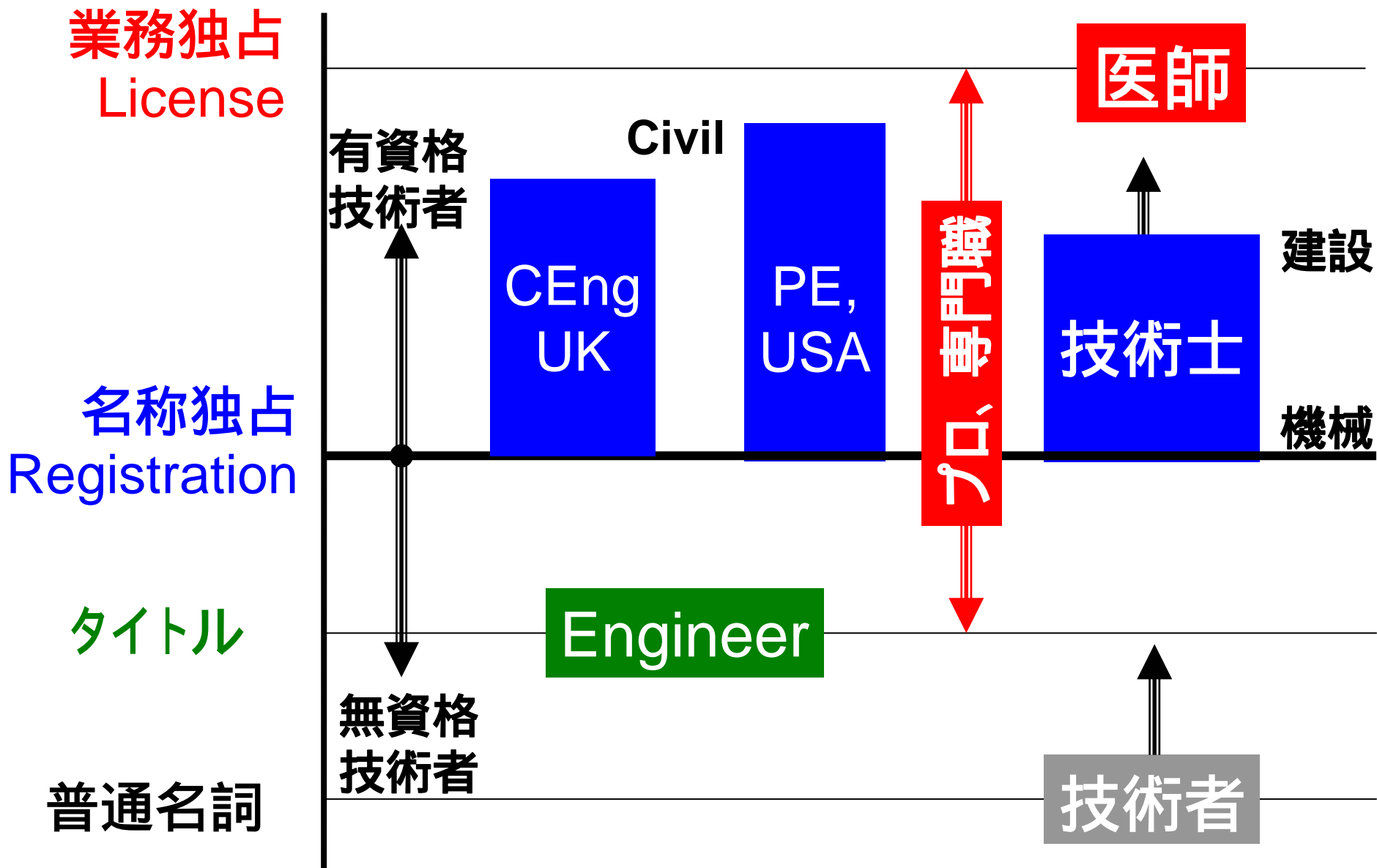
第47条の2 技術士は、常に、その業務に関して有する知識及び技能の水準を向上させ、その他その資質の向上を図るよう努めなければならない。

建築士：（知識及び技能の維持向上）

第22条 建築士は、設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上に努めなければならない。

APEC Engineer：

満足できるレベル（5年間で250 CPD時間）での継続的な専門能力開発（CPD）の義務（更新条件）



日本の技術者全体をプロに近付ける道

1. 有資格技術者の数を増やす

2. プロに相応しい能力開発

教育から、資格、CPDに至る一貫した
能力開発支援システムの構築

3. 集団として社会的認知を高める

技術者を代表する組織を核にコミュニティを形成する

人間の健康

医者と技術者

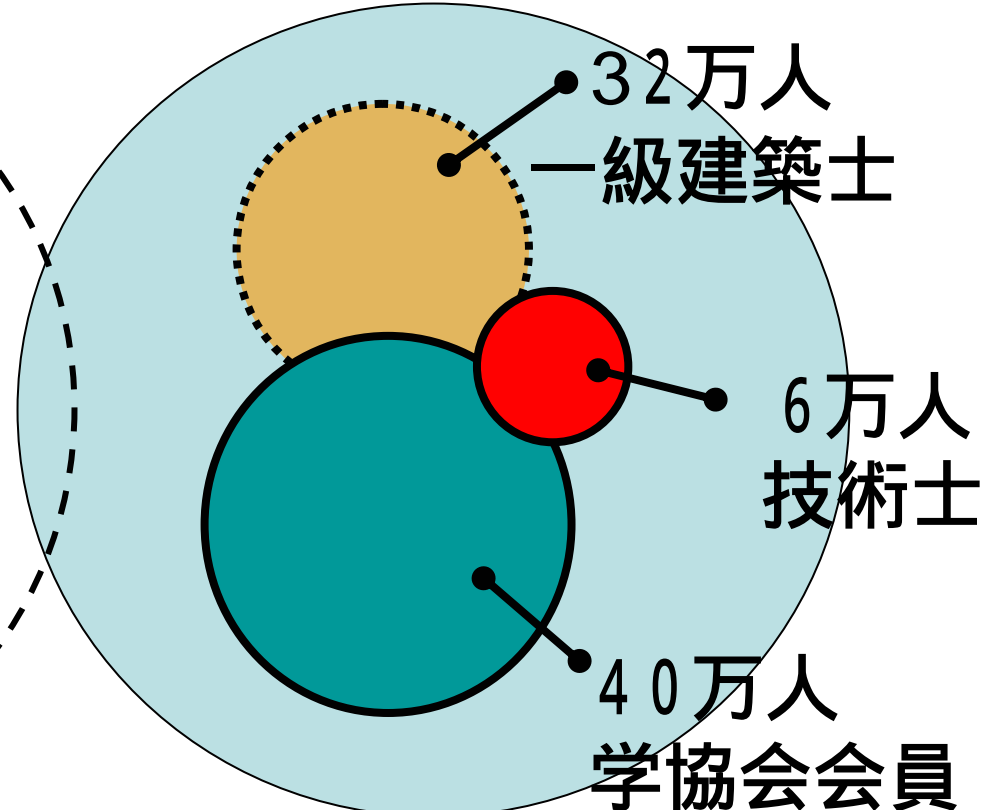
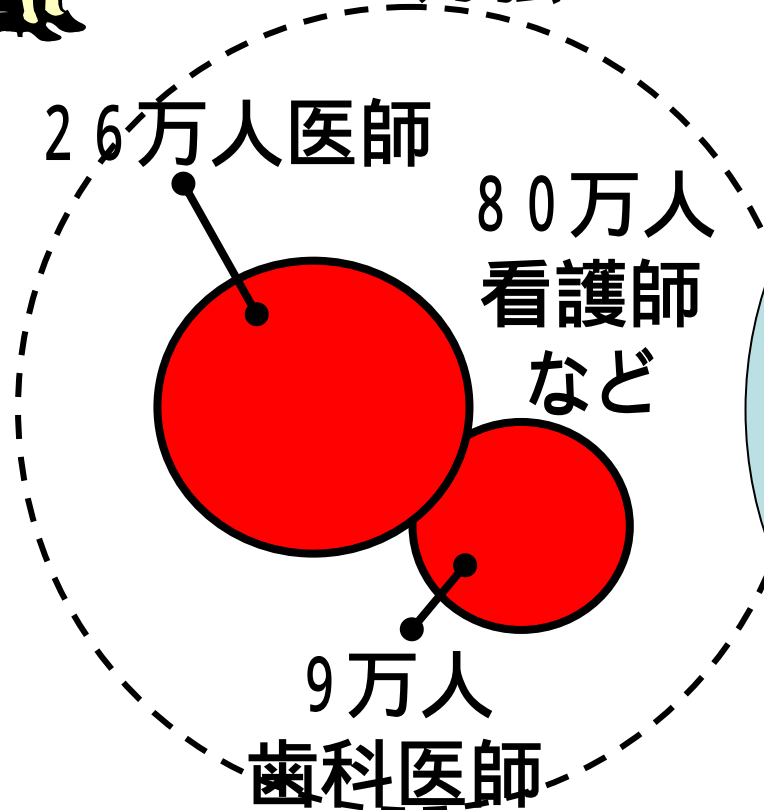
人工物の健康



誰がプロか

医療従事者
300万強

260万人技術者(自己申告)



技術者のための一貫した能力開発支援システムの構築

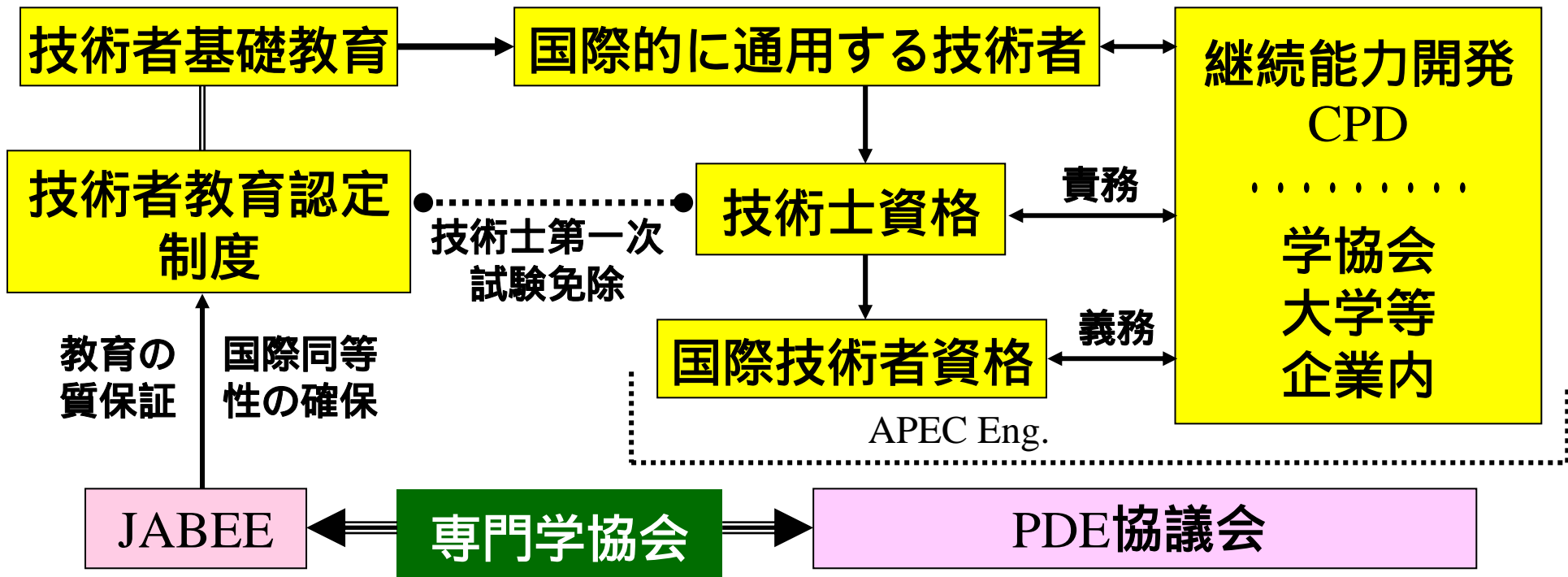
基礎教育

実務

資格取得

実務

継続能力開発

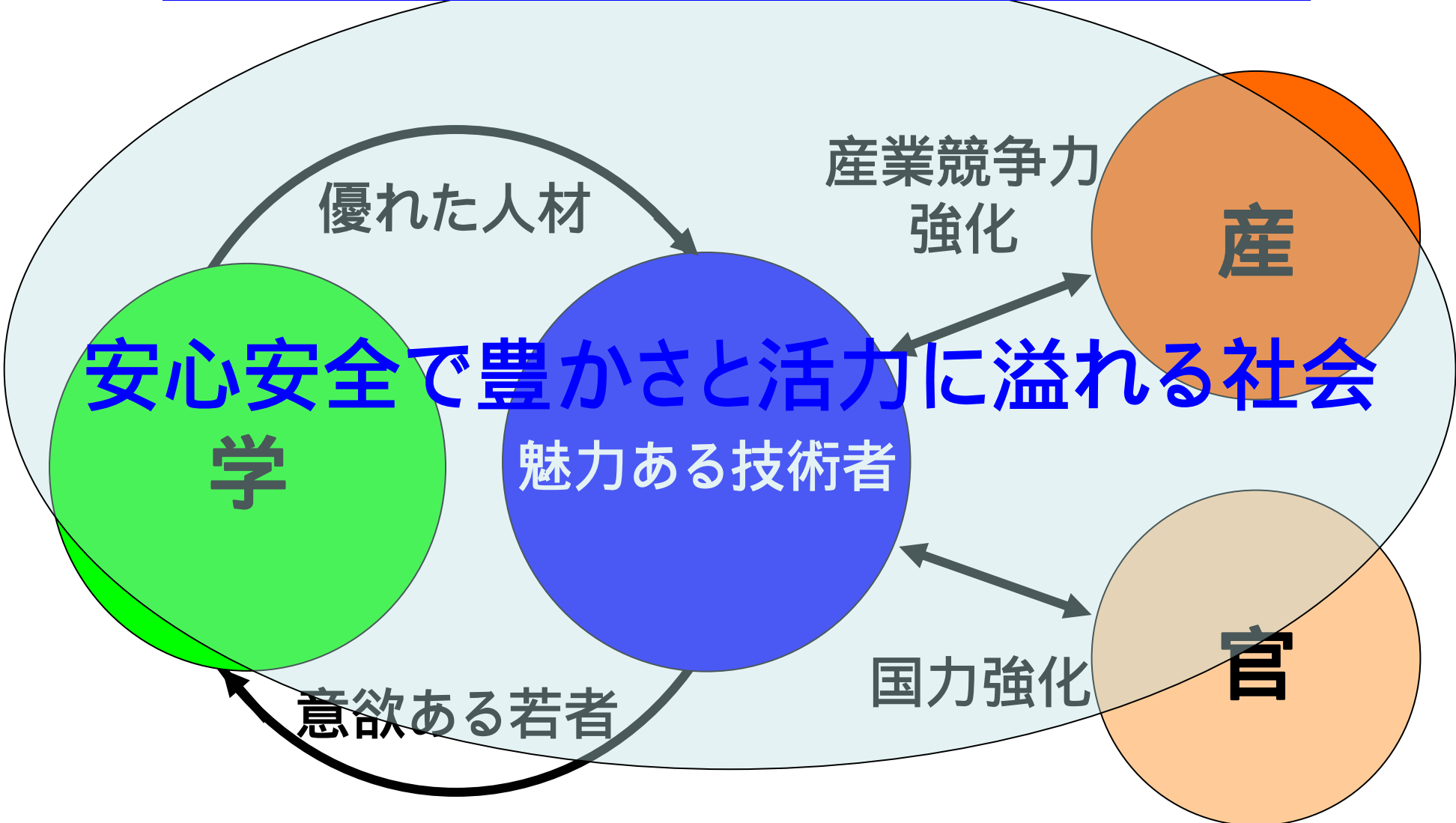


1996- 構想、1999 設置

Professional Development of Engineers

1999- 構想、準備、2006 設置 / 日本工学会
2003- 建設系CPD協議会

技術者の地位向上は共通の利益





日本技術者教育認定機構会長 大橋 秀雄

若者の理工離れが進み、技術者教育の質の低下が懸念されている。豊かで安全な社会を支える技術者をどうやって育てるか、日本技術者教育認定機構(JABEE)会長を務める大橋秀雄・工学院大学理事長に寄稿してもらった。

答えは散々だ。名前が浮かばないのはともかく、出たとしても、工具を抱

えて修理に駆けつける人から大発明家まで、イメージが定まらない。産業革命を契機にエンジニアという職業が生まれて二百年たった。この間に、一つの職能集団として社会の認知を得る努力が続いた。欧米でもエンジニアの意味があいまいで混乱した時代があったが、現在では次のように定義が固まっている。技術の担い手は、知識

教育

生かすか、に尽きる。指導改善に生かす。行政が、どの学ウハウなどの支援をを自己点検する格好秋から、教育課程が本格化したの学習決まる。小中学校に

進む若者の理工離れ

の低下と結びつく。先進国共通の悩みでもある。どの大学も医学部が最も入学難度が高く、工学系学部は対極だ。九六年以来三期にわたる科学技術基本計画では、技術者育成が一貫した政策課題として取り上げられたが、メッセージは若者に届かなかった。なぜ工学系を敬遠する

専門職の地位へ向上を

我々は健康に問題があれば、医師の診断と治療を受ける。人間の健康と命を守る医療には三百万人が従事し、その中心に二十七万人の医師と九万人の歯科医師がいる。しかし毎日の暮らしの中でも、実は人工物の信頼性や安全性に命を託している。飛行機に乗るときは誰でも実感するが、電車に乗っても、橋を渡っても、ビルに入っても、加工食品を食べても、それを作った見知らぬ誰かに命を託しているのだ。

様々なイメージ

人工物は技術の産物だ。医療の中心に医師がいるように、技術の中心には技術者がいる。ところが、その技術者がさっぱり見えない。若者に科

技術者教育 質低下防げ

の応用と構想力をコア能力とする「エンジニア」、技能をコア能力とする「テクニシャン」、両者の中間的性格の「テクノロジスト」に分類される。エンジニア教育としてのコア能力の違いに応じ基礎教育期間も異なり、階層を国際的に認め合う「ワシントン協定」に加盟し、JABEE認定は世界公認ラベルと同等になつた。長い間、日本の工学教育には、エンジニアからテクノニシャンまで、すべてこれが理工系新卒者の質

「割合合わない職」

工学は産業界を高め、豊かさをもたらすやりがいのある仕事と思われていた。今では、単なる知便性の担い手、おたへの

The End